

- ・対象地域：積丹町
- ・積丹町人口：2,516人(H22年国勢調査)
- ・漁港：美国漁港(第3種)、余別漁港(第4種)
- ・漁業就業者：288人(H20年漁業センサス)
- ・漁業経営体：201経営体(H20年漁業センサス)

積丹地域マリンビジョン計画改訂版

～積丹ブルーの海と緑の大地のもとに多くの人が集う地域をつくる～
 <<平成26年3月改訂>>

■ 拠点漁港のタイプ

- 美国 ○ 衛生管理流通拠点漁港 ○ 都市漁村交流拠点漁港
- 余別 ○ 防災減災支援拠点漁港 ○ 増養殖支援拠点漁港

拠点漁港



美国漁港 (第3種)



余別漁港 (第4種)

地域の資源等

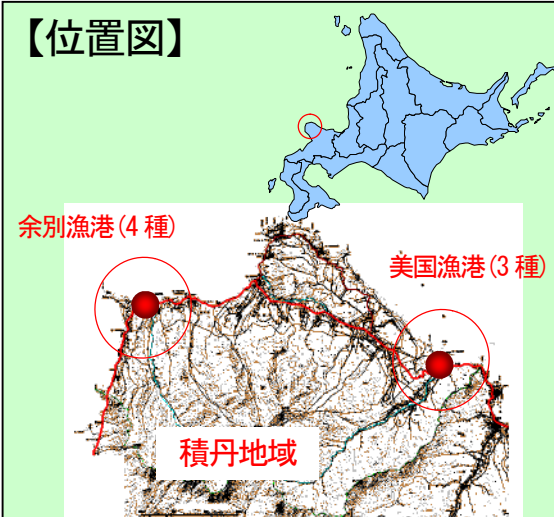


漁協青年部による水産教室



観光イベントでの水産物販売

【位置図】



現状と課題

現状

- 人口・就業者の減少と高齢化
- 天然水産資源の減少
- 磯焼けの進行、海獣による被害
- 夏型から周年型観光地への転換期
- 「積丹ブランド」のウニ

課題

- 各産業間の連携と雇用創出
- (仮称) 漁村センターと海岸環境整備を契機とした地域活性化
- 環境保全の継続と地域文化の継承
- 農水産物の生産管理とブランド化
- 地場製品の加工・地産地消の推進

地域資源(特徴)

- 豊かな自然景観(神威岬、積丹岬等)
- 各団体で取り組む環境教育(水産教室等)
- 一般市民ダイバーと協働した環境保全活動
- 森・川・海の繋がりに配慮した環境保全活動
- 地域住民による地域資源発掘(まちな道)
- 高齢者・女性による加工品製造・販売
- 海産物(ウニ、ホッケ、イカ、サクラマス等)
- 消費者との連携した環境保全型農業
- 冬の魅力と生活文化・産業遺産(鯧漁等)

地域の目指す姿

■ ビジョンの特徴(理念)

年間約80万人の観光客が訪れる道内有数の観光地が持つポテンシャルと、これまで町内で取り組んできた環境保全・文化伝承等の成果を踏まえ、漁港とその周辺における新たな交流拠点整備を契機として、地域産業の連携・協働により雇用の場を創出し、多くの人が集う、活力と賑わいのある地域を目指す。

① 地域活性化の方向性

- 積丹ブランドの形成と販売体制の強化、周年型観光の実現による漁業・農業を核に観光関連産業の振興を推進

② まちづくりの方向性

- 産業基盤でもある自然環境保全の推進
- 郷土の自然・歴史・文化・産業に関する体験活動と、防災・減災対策による安心なまちづくりの実現

③ 水産業振興の方向性

- 海域環境の保全、漁場整備の継続実施
- 衛生管理の徹底と蓄養機能の確保による付加価値化
- 他産業と連携した地場消費の拡大、6次産業化の促進



検討の体制

- 事務局(積丹町)
- マリンビジョン検討協議会
漁業関係者、農業関係者、観光関係者、商工関係者、教育関係者、福祉関係者、行政関係者(オブザーバー)

推進・フォロー体制

- 推進体制
 - ・ 産業まちづくり懇話会
 - ・ 生産活動センター(高齢者事業団)
 - ・ 教育関係者
 - ・ 地域住民
 - ・ 積丹町
- フォローアップ体制
 - ・ 積丹町マリンビジョン検討協議会(進捗確認・評価、関係団体への助言)

漁港の将来像

- ① 拠点機能の強化
- ② 衛生管理・流通体制再編への対応
- ③ ストック機能の拡充
- ④ 就労環境の改善(屋根付き岸壁等)
- ⑤ 都市漁村交流の促進
- ⑥ 災害に強い地域づくりへの対応

ビジョン実現のための主な取組み

- 地場消費の拡大を念頭に、町民、観光客のニーズを把握する
- まちの魅力を再発見するため、観光ガイドの育成や地域資源を発掘する
- 産業化を念頭に、小学生の総合学習で水産教室・農業教室等を実施する
- 植樹活動等で団体間の交流を実施する
- 儲かる漁業を目指した衛生管理の強化、つくり育てる漁業の推進
- 加工業への取組み強化による6次産業化の促進